

## 季節風

### 変化の時代を生きる

情報広報部 山本 直也

初夏シーズンに学会が多く開催されているが、6月末に札幌では全日病、7月ははじめには横浜で日病の各全国学会が盛大に行われた。それぞれのテーマは全日病が「医療人の誇りを問う～北の大地から」＝医療の質の向上と病院経営、患者満足度と職員満足度を高めるために＝というサブテーマがうたわれ、一方日病は「健康社会、愛と信頼の病院をめざして」＝みなと未来からの提言＝が掲げられている。モーニングセミナー、ランチョンセミナーをはじめシンポジウム、特別講演と一般演題と膨大な量の発表がなされているが、医療の安全と質、病院の管理・経営にかかわる演題が目白押しである。頻出する言葉を拾うだけでも時代の流れと方向がみえてくる。満足度、患者さま、機能評価、アセスメント、クリニカルパス、ADL、DPC、ISO9001、ICD10、リスクマネージメント、クオリティマネージメント、アウトソーシング、電子カルテ、オーダーリングシステム、ヒヤリ・ハット、外来化学療法、日帰り手術、サーバランス、ケア・プラン、e-Learning、ベンチマ

ーク、アドヴォカシー、インフォームド・コンセント、QOL、プライマリ・ケア等々、カタカナ文字が氾濫している。

社会構造・人口構造の変化と共に医療の世界も制度・疾病構造が大きく変容しつつあり、介護・高齢者・在宅・リハビリに関する演題が主要なセクションを占めていることがこの事を暗示している。

★ ★ ★

日病学会の二千人は入ると思われる主会場を満員にして聖路加国際病院の日野原重明先生の講演が学会のトリの目玉として市民公開講座という形で行われ、満場の鳴り止まない大拍手を浴びて終焉したが、明治44年生まれ97歳の矍鑠たる姿はその内科医としての深い専門的な造詣に基づく幅広いそして高遠としか表現の仕様のないほど叡智の塊のような内容であった。自らの生き方を低処高思に求め、18世紀のソネットのplain living and high thinkingと同様の生活を基本信条にセルフ・ケアこそが医の原点であり「人生80年時代を生きる」新しい高齢社会において人々が生き方を変えていく必要性を訴えられ、介護を受けずに終始働き長寿をまっとうする老人を大量に創る「75歳以上の健やかな新老人運動」を提唱し2001年より活動している旨の発言があり、高齢者への就業差別への社会的無駄・損失が指摘されていた。

生きることは変化こそが常態であり独立自尊、セルフ・ケアが基本であり健やかな生活、そのための社交術・習慣が大切であり、よい姿勢、適正な声、上手な歩行、相手の目をみて話し、相手への配慮、会話での間、笑顔で話す、とその要諦を噛んで含めるように話されて満員の観衆がすぐに席を立てないほどの感銘を与えていた。